



DATA 外科(乳腺)

●施設認定：日本外科学会外科専門医制度修練指定施設、日本乳癌学会認定施設
●主な対象疾患：乳がん、良性乳腺腫瘍、乳腺炎など
●資格：日本乳癌学会乳腺専門医2名（指導医1名含む）、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医2名（指導医1名含む）、日本外科学会外科専門医2名（指導医1名含む）、日本がん治療認定医機構がん治療認定医1名、日本消化器外科学会認定医1名、日本内科学会認定内科医1名、日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会乳房再建エキスパンダー責任医師1名、日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医師2名



▲外科(乳腺)

多くのスタッフが結集し チームで乳がん治療を行う

当院の乳腺外科は、外科の一部門として日本乳癌学会認定の乳腺専門医2名（うち1名は指導医）で担当しており、乳がんの診断や手術、薬物療法、遺伝子検査などを行っています。

患者さん一人ひとりに合わせた治療に対応するため、乳腺外科医を中心に放射線診断医、放射線治療医、病理医、形成外科医などが協力し、診療科の垣根を越えた乳がん治療を行っています。また、がん化学療法認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師、リンパセラピストといった専門知識を持った多職種のスタッフとも連携し、チーム医療を実践しています。乳がんは転移しやすいため、多くの場合が全身療法（薬物療法）の対象となります。2023年に新設した薬物療法室は、専門スタッフが患者さんの体調の変化にすぐに対応できるような設計となっているほか、患者さんがいつでも専門スタッフに相談できる環境を整えており、安心・安全な薬物療法を提供しています。



日々進歩する、 乳がん治療に対応



日進月歩で発展する治療薬に 「がん薬物療法専門医」が対応

乳がんの薬物療法は、がん細胞の性質による個別化治療が進んでいます。そこでまず病理組織検査によってルミナルAタイプ、ルミナルBタイプ（HER2陰性）、ルミナルBタイプ（HER2陽性）、HER2タイプ、トリプルネガティブの5つのサブタイプに分類します。サブタイプ分類により、それぞれ効果的な薬物療法を選択できますが、近年はさらに、悪性度の高いトリプルネガティブの治療薬として「免疫チェックポイント阻害薬」が加わりました。

短期間でアップデートされる薬物療法に対応できるよう、当院の乳腺外科医は2名とも「がん薬物療法専門医」の資格を取得しています。がん薬物療法専門医とは、さまざまな臓器のがんに関する薬物療法の知識や技術があり、質の高いがん治療を実践できる専門医です。そのため乳がんだけでなく、乳房以外の臓器にがんが発症する「重複がん」の患者さんにも対応することができます。

確実な治療に結び付けるための遺伝子検査

外科（乳腺）

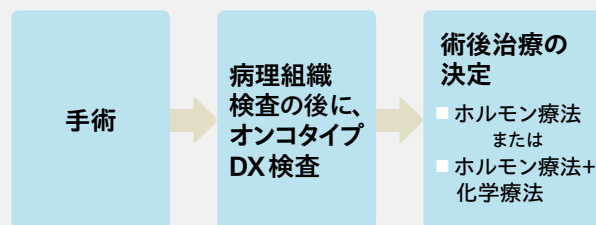
■ オンコタイプDX検査対象者

下記のすべてに当てはまる方が対象です。

- ☐ ホルモン受容体陽性
- ☐ HER2陰性
- ☐ リンパ節転移がない、微小転移または転移があっても1〜3個
- ☐ 早期浸潤性乳がん

検査期間：およそ2〜3週間ほど（現行は海外委託となるため米国の検査会社が行う）＊2023年より保険適用

■ ホルモン受容体陽性・HER2陰性で、オンコタイプDX検査を行った場合の流れ



治療方針の決定をサポートする オンコタイプDX検査

乳がんのサブタイプが、ホルモン受容体陽性・HER2陰性の患者さんに対する術後の薬物療法では、以前はがんの大きさや悪性度、全身状態、閉経前か閉経後かなどから推測して、ホルモン療法のみか、化学療法（抗がん剤治療）を併用するかを決定していました。しかし、乳がんの治療方針を決める「オンコタイプDX検査」という遺伝子検査によって、予後や抗がん剤を併用した場合の効果を予測することが可能になりました。それにより、過不足のない確実な治療を行うことができます。

オンコタイプDX検査では、手術で切除した組織を用いて、がん組織に含まれる21個の遺伝子を調べます。その遺伝子を分析し、再発のリスクや化学療法を上乗せした場合の効果を数値化します。検査は2023年9月に保険適用となり、当院では条件に該当する患者さん（上囲み参照）のおおよそ9割の方が検査を受けています。

乳腺外科医と形成外科医が連携して 行う、乳房再建手術も可能

乳がんは手術によって乳房が失われたり、形が大きく変形したりすることが多いため、患者さんの希望に応じて、乳房の形状を整える「再建手術」も行います。

再建手術は、乳腺外科医と連携した形成外科医が行います。手術は自家組織での再建と、シリコンインプラントなど人工物を使った再建の2種類があり、当院の形成外科ではいずれも対応しています。

乳がんは早期発見・早期治療により完治を目指すがんです。地域の先生方には引き続き、患者さんに検診の大切さをお伝えいただければと思います。

また、圧倒的に女性に多い乳がんですが、ごくまれに男性の乳房にも発生することがあります。男性の乳がんの症状も乳房のしこりや乳頭からの分泌物、乳頭や乳輪部のびらんなどですが、自覚症状がない場合もあります。

そのため乳房に不安がある患者さんや、乳がん検診で異常が見つかった患者さんがいらしたときは、性別にかかわらず当院の乳腺外来にご紹介ください。

新しい情報を適切に治療に取り入れつつ、早期発見・早期治療で、これからもよりよい乳がん診療を行ってまいります。

Doctor's profiles



薬物療法科／外科（乳腺）
医師 和田徳昭 Noriaki Wada

出身地 栃木県

趣味

Apple 信者、メタボ対策のエクササイズ

医師になったきっかけ

実家の後継拒否のため、親を納得させるための優れた職業だと思ったから



外科（乳腺）
医師 河合佑子 Yuko Kawai

出身地 埼玉県

趣味

ドラマ鑑賞、旅行

医師になったきっかけ

人の役に立つ職業に就きたいとの思いから。中でも奥が深い乳腺分野にひかれた

医療機関の先生方へ

市川総合病院 初診事前予約申込書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、右記へお尋ねください。

患者支援センター 地域医療連携室

Tel 047-322-0151(内線2214) Fax 047-324-8539

開室時間 月曜日～金曜日：午前9時～午後5時

土曜日：午前9時～12時（第2土曜日は休診日）